

2022.5.12

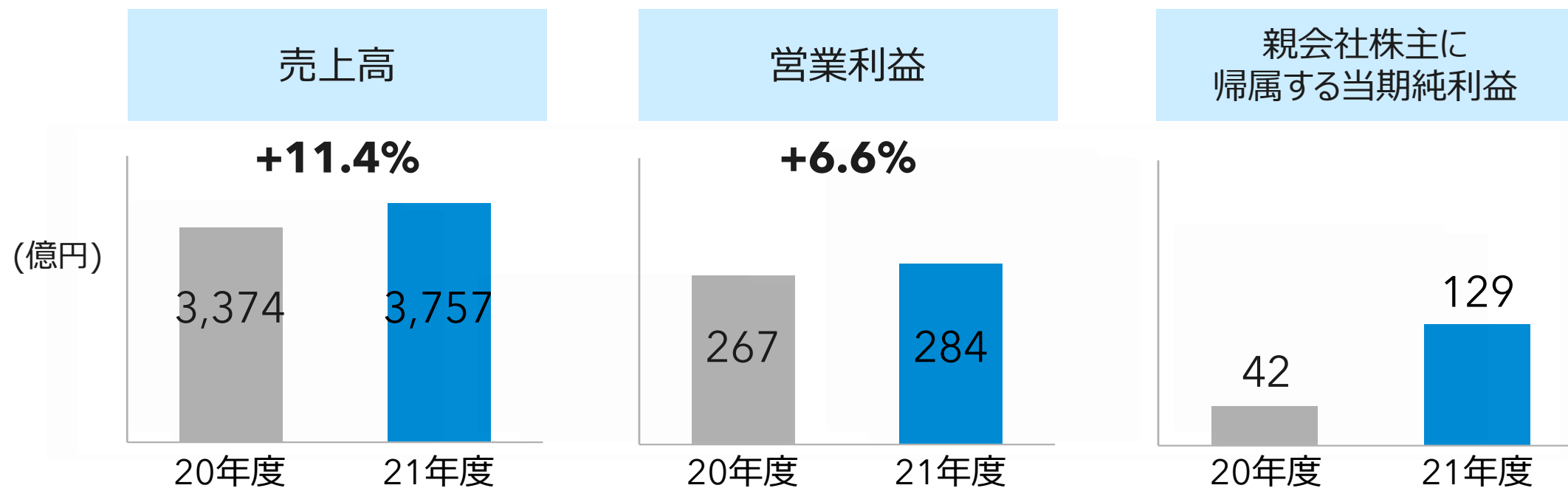
2021年度決算説明

東洋紡株式会社

2021年度実績

原燃料価格高騰の影響あるも、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移し、増収増益。

営業利益 284 億円（6.6% 増）、当期純利益 129 億円（3.1倍）



2022年度予想

フィルムの増産効果、価格見直しを進めるものの、原燃料価格の高騰継続、PCR検査試薬の出荷減を踏まえ、営業利益 240 億円、当期利益 130 億円を予想

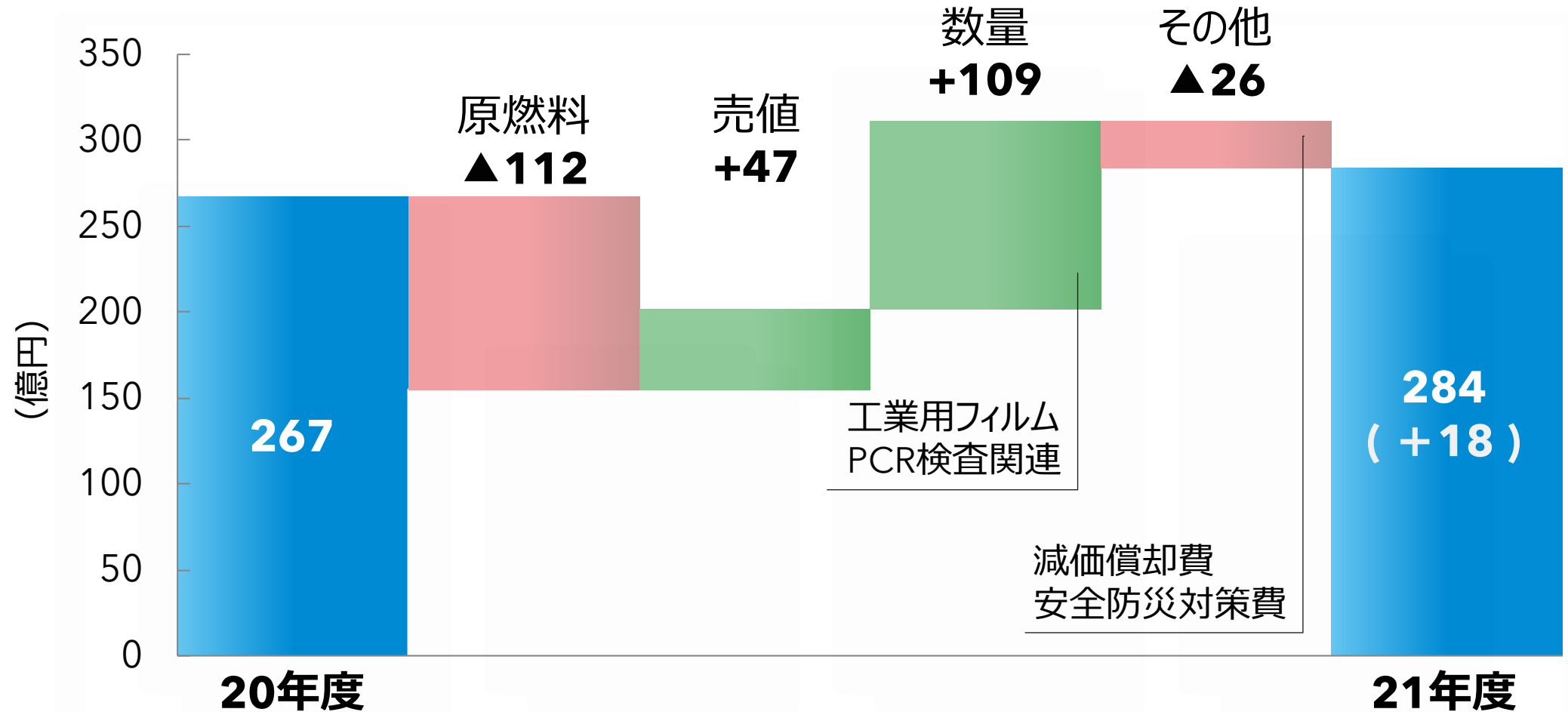
決算サマリー | PL

TOYOBO

	20年度	21年度	増減		直近予想 (22/03)
			金額	率	
売上高	3,374	3,757	+383	+11.4%	3,700
営業利益	267	284	+18	+6.6%	290
(率)	7.9%	7.6%	-	-	7.8%
経常利益	207	231	+24	+11.5%	240
特別損益	▲ 151	▲ 83	-	-	
親会社株主に帰属する当期純利益	42	129	+87	+206.2%	105
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	458	485	+28	+6.0%	
EPS (円)	47.3	144.8	-	-	
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	2.3%	6.8%	-	-	
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	5.0%	5.1%	-	-	
営業CF	350	171	▲ 179	-	
減価償却費	191	201	+10	+5.2%	
設備投資	233	336	+104	+44.7%	

- 特別利益：投資有価証券売却益 65 億円
- 特別損失：うち、減損 94 億円（医薬品製造受託事業、衣料繊維事業、ゼノマックスジャパン）
- 配当は、一株あたり 40 円（予定）

営業利益の増減要因



	20年度			21年度		
	上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	107	105	106	110	115	112
国産ナフサ (千円/kl)	28	35	31	51	63	57

	(B)		(A)	(億円)
	20/3末	21/3末	22/3末	増減(A)-(B)
総資産	4,889	4,912	5,178	+266
現預金	252	347	272	▲ 75
棚卸資産	806	763	960	+197
有形固定資産	2,315	2,246	2,276	+29
純資産	1,826	1,886	1,971	+85
自己資本	1,779	1,857	1,949	+91
うち利益剰余金	619	644	747	+103
非支配株主持分	47	29	23	▲ 6
有利子負債	1,751	1,870	1,912	+43
D/E レシオ	0.98	1.01	0.98	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.8	3.3	3.4	-

* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

決算サマリー | セグメント別

TOYOTO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (22/02)
	20年度	21年度	20年度	21年度	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,528	1,703	200	199	▲ 1	210
モビリティ	366	447	▲ 16	▲ 18	▲ 2	▲ 18
生活・環境	1,091	1,143	44	35	▲ 9	37
ライフサイエンス	271	350	45	87	+41	78
不動産・その他	118	114	23	22	▲ 1	21
消去・全社	-	-	▲ 30	▲ 40	▲ 10	▲ 38
合計	3,374	3,757	267	284	+18	290

(億円)

	20年度			21年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	738	791	1,528	859	844	1,703	+175	+11.4%
営業利益	87	113	200	122	77	199	▲1	▲0.7%
(率)	11.8%	14.3%	13.1%	14.2%	9.1%	11.7%	-	-

包装用フィルム

- 需要は堅調も、原料価格が年度後半に急騰し、販売価格の改定が追いつかず

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、新ライン（3号機）の稼働により、約 20% 増収
- セラコン用離型フィルムは、新ライン（加工設備）の稼働により、約 15% 増収

機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、エレクトロニクス用途の販売が堅調に推移も、原料高の影響を受ける

(億円)

	20年度			21年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	150	216	366	216	232	447	+81	+22.3%
営業利益	▲ 13	▲ 3	▲ 16	▲ 9	▲ 9	▲ 18	▲ 2	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

エンジニアリングプラスチック

- 海外は、中国、米国、タイの販売が堅調。販売価格の改定も進む
- 国内は、販売価格の改定が追いつかず。年度後半は、自動車減産の影響を受ける

エアバッグ用基布

- 原料高に対し、販売価格の改定が追いつかず、苦戦

(億円)

	20年度			21年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	502	590	1,091	547	596	1,143	+51	+4.7%
営業利益	18	26	44	19	16	35	▲ 9	▲ 21.1%
(率)	3.5%	4.4%	4.0%	3.4%	2.7%	3.0%	-	-

環境ソリューション

- VOC処理装置は、前年度の海外営業活動の停滞による受注減で減収。
ただし、LIB市場の拡大により受注は好調

不織布

- 長繊維不織布スパンボンドは、建材用途で回復も、自動車減産、原料高の影響を受ける

繊維機能材

- ポリエステル短繊維、機能性クッション材“ブレスエア―”は、原料高の影響を受ける
- スーパー繊維は、釣糸・自転車タイヤ用途などニッチ分野の需要堅調

衣料繊維

- 中東向け特化生地は堅調も、スポーツ用途、ユニフォーム用途は回復遅れ

(億円)

	20年度			21年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	124	147	271	163	187	350	+79	+29.2%
営業利益	16	29	45	46	40	87	+41	+91.6%
(率)	12.9%	19.8%	16.7%	28.2%	21.7%	24.7%	-	-

バイオ

- PCR検査用原料・試薬、遺伝子検査装置・診断薬の販売が拡大

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は堅調。抗体医薬プロセス向けウイルス除去膜の出荷は伸びる
- 神経再生誘導チューブ“ナーブリッジ”は、北米展開開始
- 骨再生誘導材“ボナーク”は、製造販売承認取得済み、2022年度より販売開始予定

医薬

- 医薬品製造受託は、FDA対応のため、操業度低下

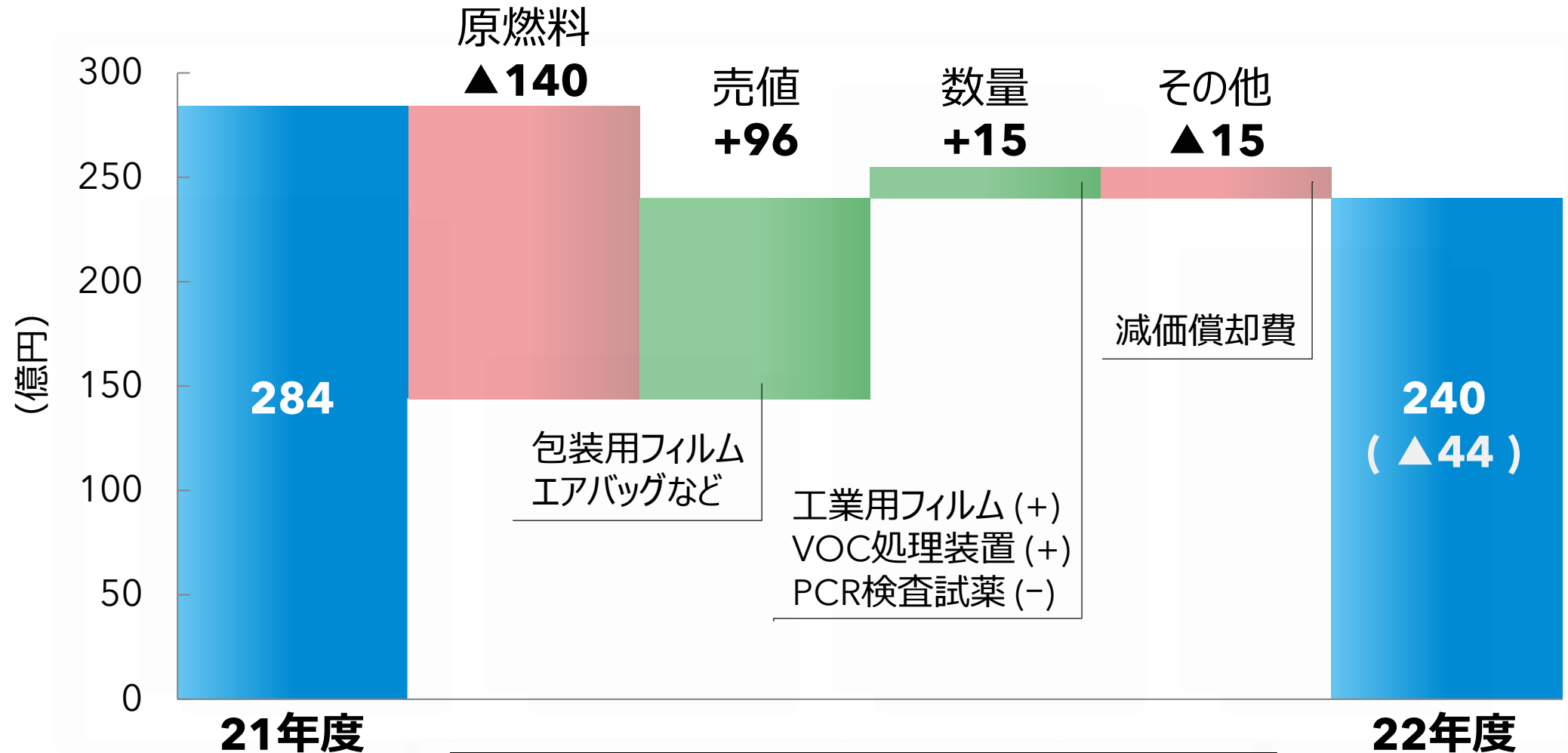
2022年度 業績見通し

フィルムの増産効果、価格見直しを進めるものの、原燃料価格の高騰継続、PCR検査試薬の出荷減を踏まえ、営業利益 240 億円、当期利益 130 億円を予想

(億円)

	21年度	22年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	3,757	4,100	+343	+9.1%
営業利益	284	240	▲44	▲15.6%
(率)	7.6%	5.9%	-	-
経常利益	231	180	▲51	▲22.1%
特別損益	▲83	6	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	129	130	+1	+1.0%
EBITDA	485	450	▲35	▲7.2%
EPS (円)	144.8	146.3	-	-
減価償却費	201	210	+9	+4.6%
設備投資	336	380	+44	+13.0%

営業利益の増減要因



	21年度	22年度
為替レート (円/US\$)	112	125
国産ナフサ (千円/kl)	57	84

セグメント別見通し

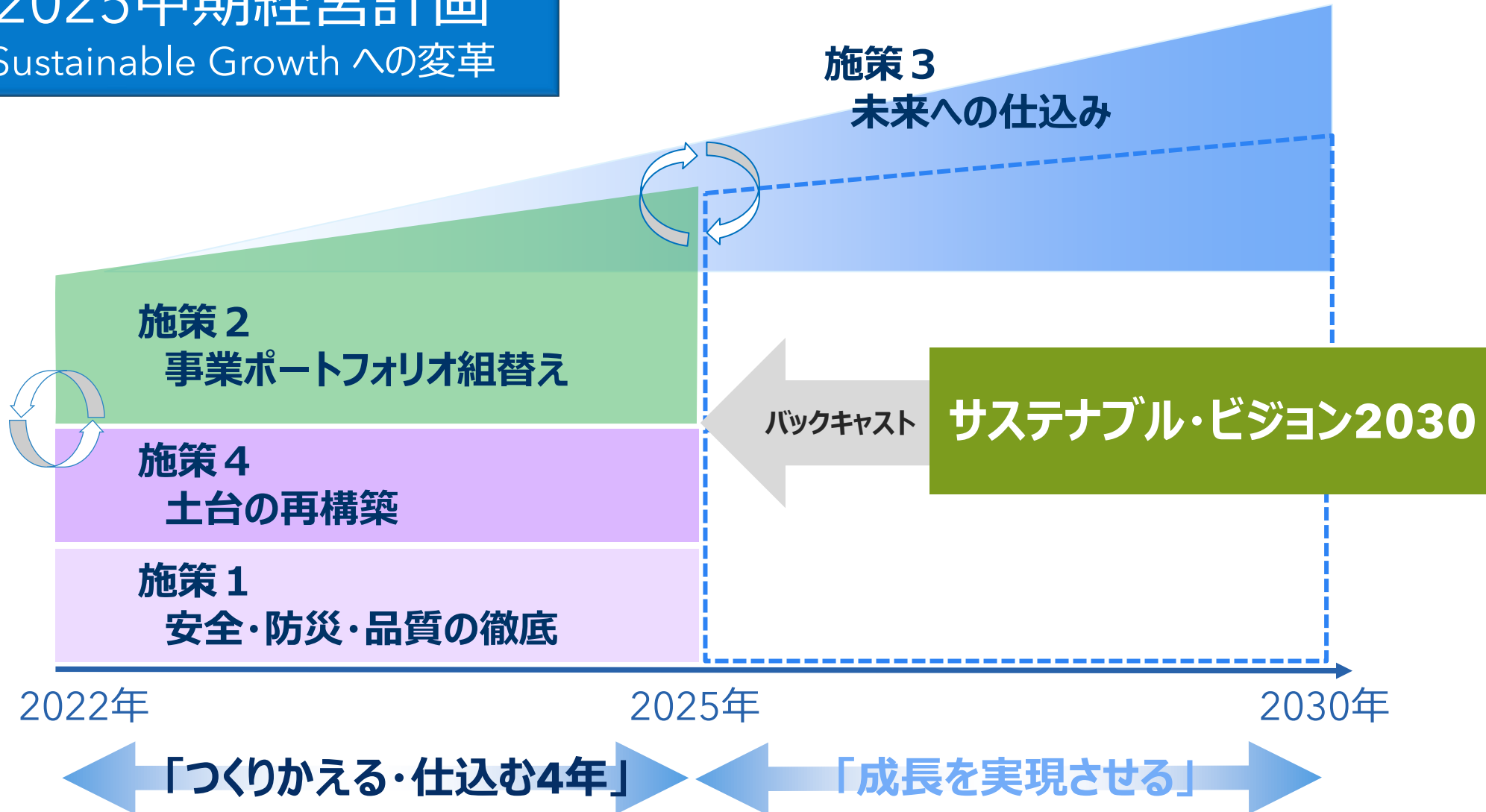
TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益		
	21年度 実績	22年度 見通し	21年度 実績	22年度 見通し	増減
フィルム・機能マテリアル	1,703	1,880	199	190	▲9
モビリティ	447	550	▲18	▲16	+2
生活・環境	1,143	1,250	35	30	▲5
ライフサイエンス	350	310	87	55	▲32
不動産・その他	114	110	22	21	▲1
消去・全社	-	-	▲40	▲40	+0
合計	3,757	4,100	284	240	▲44

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2018 - 2021 中計目標
売上高 (億円)	3,367	3,396	3,374	3,757	3,750
営業利益 (億円)	217	228	267	284	300
営業利益率 (%)	6.5	6.7	7.9	7.6	8.0
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	▲6	138	42	129	160
ROE (%)	▲3.0	7.8	2.3	6.8	> 8.0
D / E レシオ	0.93	0.98	1.01	0.98	< 1.0

2025中期経営計画 Sustainable Growth への変革



品質に関する重大な不適切事案の有無を確認することを目的として、アンケート調査を実施

本調査は、事業部門から独立した立場にある、当社の品質保証本部が主体となって実施

本調査の実効性を確保するために、大手監査法人の専門調査部門による助言・支援を受ける

・対象：国内外の東洋紡グループ役員・社員（契約社員、派遣社員を含む）

・時期：2021年2月～3月 多言語による無記名式アンケート

2021年7月～2022年1月 多言語による記名式アンケート 9,452名（回収率93.8%）

詳細調査の結果、現時点において、品質に関する重大な不適切事案は確認されませんでした

引き続き、全社的な改善活動に取り組んでまいります。

**また、これまで推進してきたコンプライアンス意識のさらなる向上、
品質保証に対する意識改革、組織風土の改善等も継続してまいります。**

当社は三菱商事株式会社と、機能素材の企画、開発、製造および販売を行う 新たな合弁会社を設立し、事業を開始する契約を締結しました

新会社を設立した上で当社事業の一部を分割し、三菱商事が新会社へ出資

- ・ 出資比率：当社 51 %、三菱商事 49 %
- ・ 目的：当社の技術力と、三菱商事の総合力を融合し、グローバル市場で更なる成長を実現
- ・ 事業開始時期：2023 年 1 月頃を目途
- ・ 新会社に移行する事業群「環境・機能材」（売上規模 約 1,000 億円）

バイロン・ハードレン、光機能材料、ファインケミカル、エンジニアリングプラスチック

アクア膜、VOC処理装置、機能フィルター、スパンボンド、生活資材、スーパー繊維など

TOYOBO

Beyond Horizons

超えていこう、もっと先へ

人と地球が抱えているさまざまな課題を、TOYOBOの技術や製品で解決していく。限界は超えるためにある。未来に向かって、ともに挑み続けよう。

TOYOBO

- ◆ ロゴの真ん中を走る曲線は、地平線を示しています。人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループとして、東洋紡の存在意義を示すものです。
- ◆ タグライン“Beyond Horizons”は、地理的な境界だけでなく、時間的な境界を超えていく。現在見えていることだけでなく、未来に責任を持つ、という意味を込めています。

**「サステナブル・ビジョン2030
2025中期経営計画（2022~2025年度）」**

2022年5月26日に発表予定

補足

セグメント別情報

TOYOTO

(億円)

売上高	20年度					21年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	363	375	392	398	1,528	457	402	414	430	1,703
モビリティ	68	82	105	111	366	111	105	106	126	447
生活・環境	229	273	271	319	1,091	277	270	277	319	1,143
ライフサイエンス	63	60	69	79	271	75	89	82	104	350
不動産・その他	31	31	27	29	118	26	27	28	33	114
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	755	821	864	935	3,374	946	892	907	1,012	3,757

営業利益	20年度					21年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	39	48	56	57	200	68	54	43	33	199
モビリティ	▲ 7	▲ 6	▲ 4	1	▲ 16	▲ 5	▲ 4	▲ 6	▲ 3	▲ 18
生活・環境	3	14	12	14	44	15	4	8	8	35
ライフサイエンス	10	6	16	14	45	19	28	18	23	87
不動産・その他	5	6	6	7	23	4	7	5	6	22
消去・全社	▲ 7	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 30	▲ 8	▲ 10	▲ 11	▲ 11	▲ 40
合計	44	61	79	84	267	92	79	58	55	284

安全・防災マスタープランの実行「ゼロ災」～労働安全・保安防災ロードマップ

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024～2025 年度
各年度での 重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経営トップの決意表明 ◆ 現場において対話開始 ◆ 安全・防災ワークショップ開始 ◆ 安全・保安防災推進本部の ミッション整理 ◆ 全社SMS,EMSポリシー整理 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現場において対話の定着 ◆ 安全・防災ワークショップ定着 ◆ 全社SMS,EMS仕組み構築 ◆ 現場総点検活動の総括 ◆ 新3Kな人づくり交流会開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ グループ会社への展開 ◆ 全社SMS,EMS仕組み定着 ◆ 新3Kな人づくり交流会定着 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 海外拠点への展開
安全文化の醸成 (人間の行動・意識) 価値観の共有と コミュニケーションの再構築	<p>大部分が依存型 → 独立型が増加 → 相互啓発型が現れる</p> <p>経営トップの決意表明 ※経営陣の決意表明と行動、感じてもらえるリーダーシップの発揮 (行動宣言、現場との対話)</p> <p>階層別ワークショップ (全職位階層→グループ会社・海外拠点への展開)</p>			
安全基盤の整備 (仕組み・人づくり)	<p>3S活動 (生産革新、小集団) ※現場のリスクを摘む継続的な改善、異常に気付き、改善できる新3Kな人づくり</p> <p>安全・防災研修所の設置 (全拠点)、防災教育体系構築</p> <p>防災要員配置、組織強化 (人員・専門家確保)</p>			
緊急対応の着実な実行と 日常管理への落とし込み	<p>安全・保安防災リスクマネジメントシステムの再構築 ※全社でリスクマネジメントを継続的に廻す</p> <p>監査プロジェクト</p>			
全社リスクマネジメント活動 との同期	<p>現場総点検の実行 → RA活動の定着、事例研究の見直し (水平展開の強化)</p> <p>防災総点検の見直し + 追加投資 (20億円) ※防災予算/停台日程確保</p>			
学習伝承の仕掛け	<p>ダクト点検 ダクト火災対策</p> <p>安全・防災中計 (老朽設備リニューアル、木造建屋撤去、消防設備更新、他)</p>			

「新3K」：気付く、考える、行動する

品質保証マネジメント体制の再構築ロードマップ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
重点課題	信頼回復 検査によって品質を保証し プロセスで品質を作り込む				ゆるぎない信頼 商品ライフサイクルを意識した 品質保証の考え方定着	
緊急対応	外部認証対応 アセスメント見直し お客さま対応					
是正対応	品質DXガイドライン	関係会社・海外事業所への水平展開 品質DX事例の水平展開 ⇒ スマート工場化加速				
標準化	マネジメント体制（有効性検証）：スリーラインディフェンス体制・リスクマネジメント委員会活動 着実な品質保証マネジメント運用（ISOをツールとして実ビジネスに積極活用） 品質人材マップ運用、専門職制度等での専門家育成と積極的活用					
意識改革	企業理念：「順理則裕」の原点に立ち返る／「安全最優先の」浸透・徹底 組織風土・意識改革 品質保証は全員活動！の浸透 品質保証人材の育成・品質意識の醸成					

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

➤ 「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ」の構成銘柄に選定

MSCIジャパンIMIトップ700 指数の構成銘柄の中から、ESG評価に優れた企業を選別して構築される指数

➤ 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定

GPIFが ESG 投資の判断基準として新たに採用した ESG 投資指数の構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

➤ 「健康経営優良法人 2022」に認定

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人 2022（大規模法人部門）」として認定



2022
健康経営優良法人
Health and productivity

➤ CDP 実施「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定

世界的な環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体 CDPが実施する「サプライヤー・エンゲージメント評価」において、最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定



➤ 女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定（2つ星）」を取得

厚生労働大臣より、女性の活躍推進に積極的に取り組む企業として認定



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons